

あうる

Treasure every meeting as it's chance
to happen is only once in a life time.

日高競走馬の原点

全国の軽種馬（競走馬）の約八割を生産しているのが馬王国・日高だ。

そのスタートは明治五年（一八七二）、新ひだか町静内の地に新冠牧馬場が開設されたことに始まる。その後、新冠御料牧場、新冠種畜牧場と名前を変え、現在は独立行政法人家畜改良センター新冠牧場になっている。

静内地区に在りながら新冠という名が付いているのは、最初の事務所がすぐ近くの新冠側にあったため。かつて御料牧場と呼ばれたことが日高の競争馬の原点だ。

御料牧場生みの親は開拓使長官の黒田清隆。明治五年、農耕に欠かせない馬の改良計画をたて、部下の北垣国道（後に第四代北海道庁長官となる）を日高に派遣し、牧場の適地を調査させた。北垣は静内と新冠にまたがる地を最適地と決め、何と二億坪余り（七万鈔）の牧場を創設することとなる。翌年、雪解けを待って厩舎・牧柵などを建築し、野生馬二二六頭を場内に追い込んだ。それまで野生の馬は、開墾地に横行し開拓民が汗水流して蒔いた農作物を食い荒らす悪役であったが、新冠牧馬場ができたことにより開拓地の被害も無くなった。

オオカミ毒殺作戦

馬匹改良は明治八年（一八七五）からスタートする。南部地方から種牡馬一〇頭余りを買ひ、漸次改良に着手、

良牝馬およそ三〇〇頭を選び、南部産の種馬と共に放牧し、繁殖を図った。

牧場の本格的な設計は明治十年（一八七七）から。任せられたのは、真駒内牧牛場を開設したことで知られる開拓使お雇い米人技師のエドウィン・ダン。ダンには管理を容易にするため、牧場の面積を六八〇〇鈔に縮小、南部からさらに雄種馬を持って来た。同時にサラブレッド種も四頭アメリカから輸入。

ダンが可愛がっていた「ダン号」も東京から呼び寄せ、他のエリート馬と

北海道
歴史秘話
13

新冠牧馬場

日高の馬を守るために滅ぼされた
オオカミ

馬産地日高の馬は開拓時代、野生馬で農作物を喰ひ荒らす迷惑な存在だった。その後牧場で飼うことに成功したが、今度は馬を狙ったオオカミによる被害が増大。これを防ごうとしたあるお雇い外国人の対策がオオカミの滅亡に繋がって行く。

もに、二〇〇頭の選り抜きの子と掛け合わせ、十二年には七〇〇頭のハーフが誕生した。

ところが思わぬ外敵が出現した。オオカミである。子馬九〇頭が十日も経たないうちに一頭残らず喰ひ荒らされた。そして危険は親馬にも……。

たまりかねたタンは、東京と横浜に手に入るストリキニーネを全部送るよう注文し、さらにこれだけでは足りなくなることを恐れて、サンフランシスコにも追加注文をした。オオカミ毒殺

作戦である。タンは「北海道中の生きもののすべてを毒殺するにも充分の量を手に入れることに成功した」と言っているのだから恐ろしい。

肉の塊にストリキニーネを入れ適当にばら撒く。殺された馬の死骸にも深い切り口を付けてたづなりと入れた。数週間後、オオカミは全滅した。

人気の新冠牧馬場産駒

新冠牧馬場の産駒は、明



治十三年（一八八〇）横浜競馬に出場して好成績を収め、官立牧場の名を大いに高めた。その後牧馬場では毎年六〇七〇〇頭が誕生し、その中から皇室用の馬と繁殖用候補を選んでいった。残った馬は左でん部に新冠の頭文字「N」の焼き印が押され、静内市場のセリにかけられた。市場には軍馬購買官や購買客が全国から集まった。

民間馬とN印馬が交互に引き出されたが、磨きかけた民間馬に比べ山から連れて来たようなN印馬は見劣りが

した。しかし、値段の方は逆に二声か三声で二倍にもセリ上がる状況だったという。

開拓民となった旧土族らも、御料牧場との関係を強めながら、牧場を独力で経営するようになる。

時代は下り、戦後の昭和二十二年（一九四七）に牧場は農地解放となる。大正元年に四万鈔あった地積も二二二〇鈔に激減した。払い下げを受けた農民は、ここを牧野として使った。農地解放が馬産の振興に大いに役立ったのである。

伊藤博文の七言絶句

明治四十一年（一九〇八）、貴賓の宿舎用に建てられたのが「龍雲閣」。二層の御殿造りの建物で面積は三八〇平方呎。

翌四十二年八月、伊藤博文が韓国皇太子を案内してここに一泊した。博文は宴席の座興に御料牧場を視察した感想を即興の七言絶句に表し、それを墨書した。いったん書くには書いたのだが、不要の文字を塗りつぶしたり新たに挿入したりしたため、結局、帰京後、清書して送り返すことになった。博文の馬車が動き出してから、何を思ったのか農場の者が馬で追いかけて、修正の筆が入られた原書を無理に頼み込み貰った。この年、博文はハルピン駅頭でテロの凶弾に遭い斃れる。七言絶句は軸に表装され、今も「龍雲閣」に保存されている。



江本秀幸

さん

「ひのき屋」と『プラタナスの樹』

「ひのき屋」の本は、最初写真集として出したかったんですが、どうしても

写真だけでは表現できない、とらえきれない部分に彼らの魅力を感じたんです。

それに僕は「ひのき屋」を結成して四、五年ぐらい経ってから知り合ったので、そのビハインド的な部分は文章じゃないとカバーできない。僕の流れて「ひのき屋」と付き合っていた知り合いのライターも居たから、「二人でやりましょつか」と。これが本を出した経緯です。

僕は北海道が好きで北海道を中心に動いている。彼らも、北海道出身ではないけれど、北海道を愛し、北海道か

ら発信している。そんなリンクする部分があり、世代も同じだったので、何か通ずるものがあつたんですね。

この本にも書いてありますが、彼らと旅をするホント面白い。ブラジルのノバプラタという小さな町にも行きました。あとでJリーグのブラジル人選手に言ったら「それどこ?」。ブラジルのサッカー選手にもわからないような所で、東洋人を初めて見るような人たちがばかり。僕までサインを求められたりした。そんな田舎町でしたが、イベントはものすごく盛大でした。「ノバプラタ国際民俗祭」といって、ブラジル中に生放送するようなイベントらしいんです。

夏に行きました。「ブラジルって温かいよ。浜辺のトップレスビーチで泳げるよ」って聞いていたから、半袖と短パンという常夏のイメージで行った。向こうは冬。日本と季節が反対というのを忘れていた。気温は氷点下、長袖は持っていない。寒かったですね。もつちと彼らがビッグになってくれると写真だけの本が出せるのかな。まだとっておきの写真を隠し持っているの、僕的に言うところ「ひのき屋」の写真集を出版して一〇〇%出し切りたいなという気持ちはあります。

写真から画像へ

顔写真はサッと撮ります。人間、笑っ

た顔は長く保てないんですよ。最近しみ・そばかすも全部修正できる、ものすごく精度の高いソフトもあります。昔は、単純な撮影でもストロボを立てているいろセッティングというのがありました。それが今だとカメラ一台で、上をピカッと光らせたっただけで、昔の機材ぐらいのことが簡単にできてしまふ。多少粗くても暗くても簡単にきれいにできてしまふんです。ちょっと前までは、現場でベストに撮ることが僕たちのフィニッシュワークでした。でも今は適当に撮って後で処理というところに作業の比重がズレてしまっている。

僕は撮る時がベストで、撮ったデータをハイッて渡せばいいように心掛けています。しかし、写真を勉強している最近の学生さんだと、例えばなんてことのない曇り空で撮ったものの、雲がものすごくあるような感じの処理をしたりして、後のほうでもものすごくいいものにしようとする。だからパソコンのオペレーターになってしまふんです。カメラに對峙する時間よりも立て籠もって何かしている方が長いんじゃないでしょうか。だって今フィルムで渡されたら「うん?」ってなりませんか? そいつう時代になってしまつた。

だから、編集・ライター・デザイナーさんなど僕のフィニッシュワークの先の人たちは、最近写真のことを「画像」って言つてんですよ。写真じゃなく導つものになっている。

マイナーが好き

北海道は東京から発信するものがすべてで、それを取り入れるというのが根本にある。だからマイナーなんですよ。東京は一軍だと思います。北海道にいる時点でもう二軍。僕は一軍には上がれない二軍の補欠だと思って仕事をしていますけれども、いつかは一軍に行つてやろうという想いがある。それが本来北海道のほうなんです。自分は二軍の補欠なんだ、僕より下の人間なんて絶対居ないと思って、この十何年ずっと頑張つてやっています。

マイナーの良さってあるんです。函館に行ったら「ひのき屋」を誰でも知っているんですよ。世界に発信しているレベルのバンドなのにマイナーっぽい。それが心地良くて。すごくフレンドリーな人たちに会え「ひのき屋」とは長い付き合いになるのかな。

彼らが引っ張つてやっているイベントで、八月のお盆前、一週間にわたつて行われるのが『はだて国際民俗芸術祭』です。僕も期間中、函館に入つて写真のほうで応援します。是非みなさんにも観ていただきたいですね。

江本 秀幸

えもと ひでゆき

一九七二年栗山町に生まれる。北海道デザイナー専門学校卒業後、サンセファン・橋本タミオ氏に師事。札幌市内の広告スタジオ勤務の後、一九九八年フリーに。二〇〇一年クレアトリー設立。新聞・雑誌をメインに北海道を駆け巡り撮影を行っている。旧日本写真家協会会員。

Dilettante 悠々人語録

独自のジャパニーズ・ワールドミュージックで世界を演奏旅行している函館の四人グループ「ひのき屋」。その「ひのき屋」の写真撮り続けているのがフォトグラファーの江本秀幸さん。「ひのき屋」のことを書いた『プラタナスの樹』という本も出版している江本さんの悠々人語録です。

あうる古今東西

文化譚

世界一の蔵書を誇った古代都市



書館が設置された。図書館には世界

現代でも文化遺産を持つ都市とい
うのは人を集めることができるが、
二千年以上前の古代においてもそれ
は変わらないらしい。エジプトの都
市アレクサンドリアがそれである。

紀元前三三二年、マケドニアのア
レクサンドロス大王は全ギリシャを
平定するや、さらに西アジア、北ア
フリカ、インドに及ぶ大帝國を打ち
建てた。彼は征服してゆく先々で自
分の名を冠した七十もの植民都市を
建設していったが、なかでもエジプ
トのアレクサンドリアは最大のもの
だった。

わずか三十三歳の若さでアレクサ
ンドロス大王が病没すると、その広
大すぎる帝國は部下の四人の將軍に
よって四つの王國に分割され、エジ
プトはプトレマイオス將軍が王に即
位し、以後この王朝はクレオパトラ
まで三百年近く繁栄してゆく。

建国当初、デメトリオスという雄
弁家がプトレマイオス王に、大学と
図書館を造ることを進言、提言は容
れられアレクサンドリアに大学と図

中から書物が集められ、それを目当
てに多くの文化人や学者がアレクサ
ンドリアに集まった。

書物の収集法のひとつとして、こ
の町に來る旅人は荷物から強制的に
原本を没収された。ただし、替わり
にそれを写本したものが下賜された
という。写本のための大規模な工房
があったのだろう。そのころの本は
パピルス紙や羊皮紙であったろうが
プトレマイオス三世のころは、すで
に六十万巻が収蔵されていたらしい。

二九〇年後の紀元前四三年、プト
レマイオス十三世と姉のクレオパト
ラの内紛に介入したローマの將カエ
サルは、政敵ポンペイウスとの海戦
で港のそばの図書館を類焼、数十万
巻を焼失させてしまった。

そのカエサルも暗殺に斃れ、替わっ
て実権を握りクレオパトラと親密に
なったローマの將軍マルクス・アン
トニウスは、彼女のために強引にも
当時あらたに繁栄してきた小アジア
の都市ペルガモンの図書館から、世

界一の蔵書をアレクサンドリアへと
移してしまった。

こうしてしばらくアレクサンドリ
ア図書館の繁栄は続いたが紀元三八
〇年、キリスト教を國教としたロー
マ皇帝テオドシウスは、アレクサン
ドリアにもキリスト教以外の異教の
建物を破壊することを命じる。運悪
くセラピス神の神殿内にあった図書
館も、この対象になりキリスト教徒
の暴徒によって破壊されてしまった。

さらに二五〇年後、イスラムのカ
リフ・ウルマは聖典コーラン以外の
書物は不要として、図書館の大半の
蔵書を燃やしてしまった。こうして
焚書を逃れたわずかな書だけが東ロー
マ帝國のビザンチンへ運ばれたがこ
れも、のちにオスマン・トルコ軍の
攻撃にさらされることになり、ヨー
ロッパ各地へと散逸した。ギリシャ
で花開いた自然科学はこうして中世
の暗黒へ埋もれていったのである。

当時の図書館は、書物を収集する
ことによって同時に學問の府、大学
という機能も合わせ持っていたので
ある。

BOOK INFORMATION

一冊 紹介 受書

「はやぶさ」式思考法
日本を復活させる24の提言

川口淳一郎・著

飛鳥新社

定価一、三六五円
(税込)

発行

二〇一一年二月



二〇〇三年五月に打ち上げられ、
二〇一〇年六月に地球に帰ってきた
小惑星探査機「はやぶさ」。様々な
偉業が報道されましたので、その名
を耳にした方も多いでしょう。

「はやぶさ」は四万数千キロ彼方
のイトカワという小惑星まで行き、
地表の砂などのサンプルを回収。様々
なトラブルに見舞われながらも、地
球へ帰還。その際、サンプルを入れ
たカプセルを見事に地球へ投下し、

この中に二十四個の提言がありま
す。「減点法を止めて、加点法にし
よう」「教科書には過去しか書いてい
ない」「早く良いニュースを聞きたい」
と思うな」等々、わかりやすく読み
やすく、かつ前向きになれる本です。
「スケジュールは必ず遅れる」とい
う章があります。火星探査機「の
ぞみ」(一九九八年七月打ち上げ二
〇〇三年十二月運用終了)は予定よ
りも四年遅れの軌道投入。「はやぶ

本体は大気圏で燃え尽きてしまっ
たというもの。戻ってきたカプセルの
展示は今も全国で行われ、二月には
札幌にもやって来ました。

「はやぶさ」については宇宙航空
研究開発機構(JAXA)のWeb
サイトや各動画共有サイトなどにわ
かりやすく説明されており関連書籍
も多数出ています。

そんな中で今回は、「はやぶさ」
のプロジェクトマネージャー川口淳
一郎教授の著書の紹介です。

「はやぶさ」は三年遅れの「みんな、ただい
ま!!」。金星探査機「あかつき」(二
〇一〇年五月打ち上げ同年十二月金
星軌道投入失敗)は六年後にもう一
度軌道投入予定。それまで「あかつ
き」くんには、ご安全に航行しても
らって、愛しの「きんせい」ちゃん
に会えた時は、地球のみんなに色々
秘密を教えてほしいと思います。

なので、何事も遅れるんですよ。
だからこの原稿がほんの少し遅れた
のもきつとそついつこと……。 (S)

ホームページへ
アクセス！